

学校・家庭・地域が繋がることで、地域を愛し、地域から学び、地域に貢献ができる生徒の育成 「良い環境は良い子を育てるをモットーに！」



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
津島市立 暁中学校	暁中学校学校運営協議会 令和2年7月4日 設置	地域学校協働活動推進員 4名 4名 地域コーディネーター 0名 0名	暁中学校地域学校協働本部

### 取組の背景及び目標や目指す姿

**背景**  
津島市は、伊勢湾台風で甚大な被害を受けた地域である。今も豪雨時には水害が起きる。これまでの地域防災の意識高揚に加え、CSを通じて、中学生への防災意識高揚と防災の担い手育成には、地域の強い願いがあった。熟議を重ねることで、協働活動は次の3つの過程を踏まえて、目指す生徒の姿へ迫る。①「知る」活動では、伊勢湾台風の被災の写真の掲示②「学ぶ」活動では、防災の出前講座の活用③「体験する」活動では、園児を中学3年生が引率して中学校まで往復する避難訓練をする。

**目標や目指す姿(学校)**  
「知・徳・体の調和のとれた、心身ともにたくましく、人間性豊かで実践力のある生徒の育成をめざす。」

**目標や目指す姿(地域)**  
生徒に興味をもたせる工夫をしながら、地域の大人自ら手本を示し、学びを通してシチズンブライドを育てる。

### 暁中学校学校運営協議会 の特徴

- 委員の立場や属性等**
- 地域学校協働活動推進員
  - 地域有識者
  - 保護者・PTA関係者
  - 学校管理職
  - 民生児童委員
  - 地域学校協働本部役員
  - 南小校区コミュニティ推進協議会 など、計 17名で構成
  - 神島田小校区コミュニティ推進協議会 年間平均 4回程度開催

**効果的な運営の工夫**  
学校運営協議会前には、議題に関する委員の情報やアイデアをSNS等のアンケート形式で集約することで、時間の効率化を図っている。学校管理職、CS会長、地域学校協働本部役員で事前に議題をカテゴリに分け、分野ごとの熟議をスムーズにする工夫をしている。「学校家庭地域がつながる活動」の熟議では、先に委員で熟議した内容をもとに、生徒を交えて熟議を行うことで、生徒の意見を活動に反映させることに主眼を置いた。校区が2つの地域コミュニティにまたがるため、小中学校行事や地域行事との調整を最優先して、生徒が参加でき、意見が地域の力と協働で形にできるように進めている。

### 特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会	地域学校協働活動
<p>防災活動では、生徒の伊勢湾台風の認識を把握するために、「CS委員と生徒の熟議」を実施した。被害を知らない生徒がほとんど、危機感を感じた。伊勢湾台風経験者の話を基に熟議を重ねるうちに活動への意欲が高まり、ネットワークを生かした資料収集など子どもたちへの熱い思いが一気に活動に繋がった。</p> <p>生徒とCS委員との防災熟議</p>	<p>①「知る」活動として、60年前の伊勢湾台風時の被災写真や防災意識を高めるパネル等の展示に委員総出で取り組んだ。委員の提供やつながり力から120枚以上の写真が集まり、保護者懇談会に向け、生徒や保護者の興味関心を高める工夫をして準備活動が始まった。</p> <p>伊勢湾台風防災パネル展示準備</p>

**「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等**  
地域の諸団体の代表が緩やかにつながる組織「ネットワーク会議」で7年前より協働活動を進めている。ほとんどがそのままCS委員に委嘱され、CSと協働本部は既に一体的な活動体制ができ上がっている。地域コミュニティは以前より地域防災を最重要課題として取り組んでいるため、CSとも連動して、中学生に防災意識を高め地域の即戦力となるよう取り組んでいる。「暁中・唐臼こども園合同避難訓練」では、コミュニティ関係者は、避難時の道中の交通整理を担当し、地域読み聞かせボランティアは、避難後の待機時間に、園児に向けた絵本読み聞かせ(台風関連絵本)を受け持つなど、CSと協働本部が一体となって活動展開している。

**成果・効果**  
令和3年度から熟議を重ねて地域防災に取り組み始め、既に令和4年度の会議予定や防災計画が決まっている状態で、今年度、新校長を迎えた。CSがなかったら、再度、新校長の下で、ゼロスタートで、4年度の基本方針の承認などが進められたと考えられる。4月末よりCS・協働本部組織が中心となって活動が予定通り動き出せるのは、CS委員の権限があるからこそであり、生徒・学校を全面的にマネジメントする応援団であることの仕組みが生かされた。学校運営協議会の3部会では、地域や生徒・教職員とともに熟議して、具体的な活動を計画する話し合いは、まさにカリキュラムづくりを地域とともに進めている感があつた。成果としては、アンケート等から① 暁中校区での活動が、地域の顔となり、人が繋がりがつある。◆校内や通学路で会った時、「この人、知ってる！」が、自然に挨拶の言葉へと繋がっている。◆活動を通して地域同士のコミュニケーションも増えた。◆地域のチラシ(「暁中コミュニティ・スクールだより」回覧板)も関心をもって読んでもらえるようになった。② 「学校運営協議会熟議(対生徒)」では、子ども達と津島の良いところやアピールポイントを話し合い、◆「友達・家族が優しい。」という意見が出た。◆私たち大人は外側からの視点で考えがちだが、本当の大切なものは身近な存在をはじめとした、地域の一人ひとりなのだ子どもたちから気づかされた。◆地域を考えることは、家族や友だちの事を考えることに繋がると思う。◆熟議での生徒感想(2年)ではグループワークでの発言時に地域の皆さんが目を見て相づちを打ちながら反応してくれたことが、何より嬉しかった。③ 防災を知る活動「伊勢湾台風災害状況パネル展示」の保護者アンケートでは、◆CS活動の一環で、中学校内の保護者懇談会時に、防災パネルが展示され、中学生への周知にもつながり、その上、親子で目にすることで、家庭での話題にもなり、とても良かった。